

信仰の内面性を重視し
正統派教会ともユニテリアン、
社会主義的キリスト教とも一線を画して
独自のキリスト教思想を探究した増野悦興。
近代日本のキリスト教受容の過程における
「異端児」であり、
かつ川越高校創立者として
自治自修の教育を実践した
教育者でもあった。
日本近代のキリスト教史の結節点に存在しながら、
埋もれていた彼の思想を
著者渾身の筆で浮かび上がらせる。

増野悦興研究

おまし の よし

埋もれたキリスト者の生涯と思想

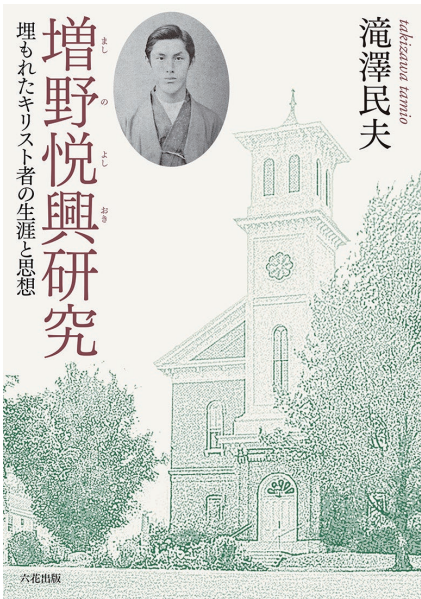


左から 中瀬古六郎、増野悦興、
安部磯雄

滝澤民夫 著

2019年
9月刊行!

定価：8,000円+税
体裁：A5判・上製・632ページ
ISBN978-4-86617-078-7



推薦のことば

増野悦興（一八六五―一九二一）はほとんど無名といつてもいい人物である。そのような人物を現代に蘇らせる作業は大変な労力が伴う。著者の研究へのエネルギーの源は、母校（旧川越中学、現埼玉県立川越高等学校）の校長であったという偶然的出会いもさりながら、この人物の生き方や思想への共感によるところが大きい。彼の足跡を内外にわたっての史料調査と渉猟、そして綿密な研究の中で、結実したのが本書である。

幕末、津和野で生まれた増野の人生を決定づけたのは、キリスト教との出会いである。同志社新島襄のもとで連袂退学するまで約四年間学ぶ。その後、日向伝道に赴き石井十次との交友もあった。一八八九年には渡米しアンドーバーやバンゴ―神学校で研鑽を積む。また霊南坂や安中教会で牧師を勤め、のちに教育者として尽力し、晩年はユニバーサリズム（日本同仁基督教会）の牧師

室田保夫

（関西学院大学名誉教授）

として活動した。著者はその数奇な生涯を丁寧な追求している。

著者の研究はキリスト者、教育者、道徳家としての評価である。増野は新神学に共鳴し当時のキリスト教界にあきたらず、独創的なキリスト教思想を探究した。天皇とキリスト教との関係についての独特の解釈もそうであった。彼の信仰の内面性の重視は近代日本の思想形成において北村透谷にも共有する重要な課題である。一方、教育者としての増野は人造り、人格形成という教育思想を実践した。これは新島の「遺訓」の彼なりの具体化であった。晩年に『高貴なる人格』という著があるが、人格形成という課題は、日露戦後の倫理や道徳の問題であった。著者の増野への共感近代日本への警鐘ともとれる。

目次

序章 ● 研究の視点と方法

- 第一節 ▼ 本研究の目的
- 第二節 ▼ プロテスタントキリスト教思想に関する先行研究
- 第三節 ▼ 中等学校教育史での青年の人格形成に関する先行研究
- 第四節 ▼ 増野悦興研究に関する資料と先行研究
- 第五節 ▼ 問題の所在と研究の意義
- 第六節 ▼ 視点と方法 ― 本研究の経過と史料の発掘および活用
- 第七節 ▼ 本研究の概要

第一部 日本の近代化と地方青年

第一章 ● 津和野時代から東京時代

幼少期の人格形成

- 第一節 ▼ 増野悦興の出生前後から津和野時代
- 第二節 ▼ 父増野貞吉のこと

第二章 ● 同志社英学校時代

師新島襄との出会い

- 第一節 ▼ 新島襄との出会いとキリスト教徒としての自覚
- 第二節 ▼ 同志社英学校から伝道活動
- 補論(一) ▼ 多度津藩家老畑平学と妻もと、娘咲子の数奇な半生

第三章 ● 日向高鍋教会時代

石井十次との出会い

- 第一節 ▼ 伝道師増野悦興と医学生石井十次との交友
- 第二節 ▼ その後の増野悦興と石井十次

第四章 ● 大阪基督教徒青年会時代

『基督教徒青年』誌の編集

- 第一節 ▼ 青年教役者
- 第二節 ▼ 『基督教徒青年』誌の編集
- 補論(二) ▼ 大阪基督教徒青年会と十津川大水書

第二部 「文明」の摂取と地方青年の育成

第五章 ● 北米修学時代

アンドーバー神学校からバンゴースクールの神学校

- 第一節 ▼ 北米修学直前の伝道活動

滝澤民夫 (たきざわ・たみお)

- 一九四七年 東京に生まれる
- 一九六六年 埼玉県立川越高等学校卒業
- 一九七四年 早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了
- 一九七四～二〇〇九年 埼玉県の公立高校で三六年間社会科を担当、川越高等学校で定年退職
- 一九九一～二〇一八年 早稲田大学などで一四年間非常勤講師、日本近代思想史・歴史教育担当
- 二〇一八年 博士(文学、早稲田大学)
- 二〇一九年四月～ 山村学園高等学校指導教諭

- 第二節 ▼ アンドーバー神学校での二年間
- 第三節 ▼ バンゴースクールの二年間
- 第四節 ▼ 北米修学で見た「新英洲」

第六章 ● 神学論の形成

霊南坂教会・安中教会時代

- 第一節 ▼ 『基督教徒青年』期から北米修学期のキリスト教認識と信仰
- 第二節 ▼ 北米修学後のキリスト教認識と信仰 ― 信仰の実験
- 第三節 ▼ 一八九〇年代の知識青年のプロテスタントキリスト教受容の検討
― 北村透谷・岸本能武太と増野悦興におけるキリスト教認識と信仰

第七章 ● 中学校教員時代

- 第一節 ▼ 岐阜中学校・金沢中学校から東京府教育会附属小学校英語教員伝習所
- 第二節 ▼ 川越中学校での活動
- 第三節 ▼ 増野悦興の教育活動と新島襄の遺志の体現

第三部 故郷の喪失と近代化への懐疑

第八章 ● 成民会時代から日本同仁基督教会時代

『成民』誌から『高貴なる人格』へ

- 第一節 ▼ 瑞豊塾の開設
- 第二節 ▼ 成民会と『成民』誌の発行
- 第三節 ▼ 丁酉倫理会
- 第四節 ▼ 日本同仁基督教会と飯田町教会・秋田伝道

第九章 ● 倫理主義と言信一致

臨終前後

- 第一節 ▼ 『高貴なる人格』への思い
- 第二節 ▼ 安部磯雄・村井知至・岸本能武太の友情
- 第三節 ▼ 川越中学校第一回卒業生岡田恒輔と『筆華舌英』
- 補論(三) ▼ 家族のその後

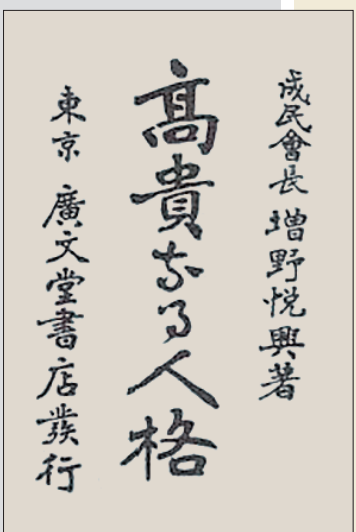
終章 ● 結語と課題

- 第一節 ▼ 増野悦興が遺したもの
- 第二節 ▼ 課題と展望

略年譜

参考文献

あとがき



2019年5月

注文カード

帖合・書店名

〈八木書店経由〉

注文数

冊

発行 六花出版 滝澤民夫 著

増野悦興研究

埋もれたキリスト者の生涯と思想

定価 本体八、〇〇〇円＋税 ISBN 978-4-86617-078-7

お名前

電話番号

注文 年 月 日

*小社は注文制です。お近くの書店にご注文ください。お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。電話 03(32293)8787 FAX 03(32293)8788 Eメール info@rikka-press.jp